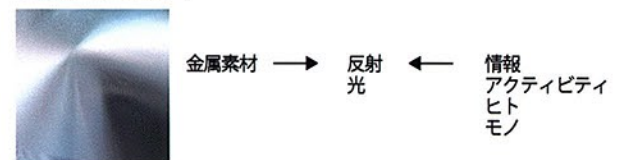


「reflection= 反射」
ビジネスエリアにおける現代的な駅舎デザインは、目まぐるしく行き交うオフィスワーカーの活気や街の熱気、スピード感を映し出すデザインであると考えます。併せて、それは伝統的な要素と、先端的でワクワクさせるクールな表現が合致した空間であるべきです。空間を構成するモチーフは各駅の歴史的な要素からの抽出によって導きます。併せて金属材料や鏡面仕上げなどの高反射性の現代的な素材によって空間を仕立てることで、伝統・先端が融合したビジネスエリア・デザインを創出します。



ユーザー像： 地方都市にある地域の伝統工芸を活かしたプロダクトを生産する中小企業の経営者、40代男性。溜池山王にあるグローバル企業と提携し、海外進出を図る新規プロジェクトのキックオフミーティングで、東京へ出張に来ている。

朝、赤坂のホテルから外濠を眺め赤坂見附駅に向かう。すると石や金属、木が積層されたスピード感のある駅デザインに驚く。同僚曰く、見附の積み上げられた石垣や、行き交う交通の躍動感を表現したデザインとのこと。ふと、車が慌ただしく立体交差するホテルからの道のりが思いだされ、地下鉄に居ながら街の歴史や雰囲気や再認識できる演出にうれしくなった。打合せ成功の期待が膨らむ。

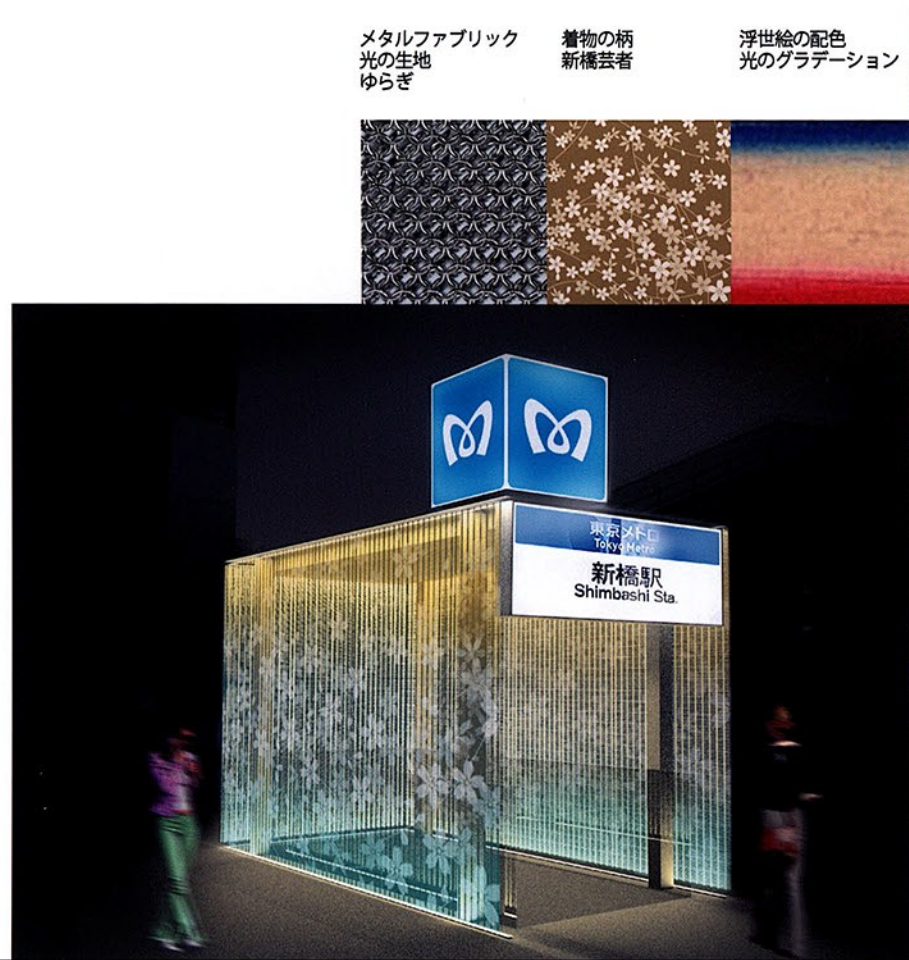
提携企業のある溜池山王駅で降りると、キラキラと光るホームの壁に目が行った。周囲の照明をひろい、まるで水面（ミナモ）のように光るではないか。暫しこの包み込まれた光に魅かれていると、この場所が溜池であったこと、日枝神社があることに気付いた。神秘的な美しさを感じ、心が落ち着くのがわかった。打合せは冷静に臨めそうだ。

会議は無事終了、来日していた外国人スタッフと一緒に打ち上げを行うことに。飲み屋街を思い浮かべ新橋駅へ。着くと駅の雰囲気やクールで上品であり、和の柄があしらわれたデザインに外国人スタッフは驚き喜んでた。なるほど、飲み屋街のイメージだったが、新橋芸者の花街文化があることに気付く。駅デザインに触れながら、外国人との距離を縮めることができるなんて、今後の展開が楽しみだ。打ち上げは、少し上品に和を感じるお店にしてみるか。

銀座線、それは地下鉄故に、街の雰囲気や歴史を想像させる、イメージーションの旅をさせてくれる乗り物なんだと思った。

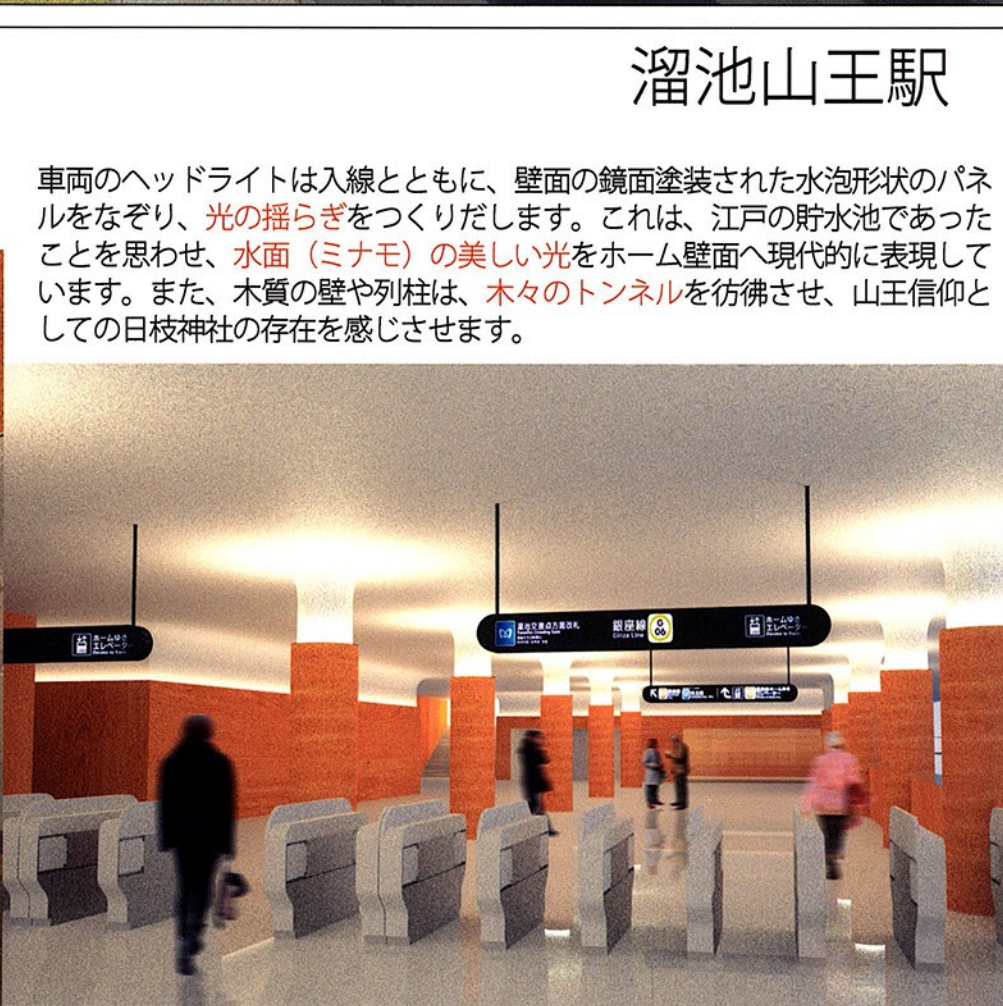
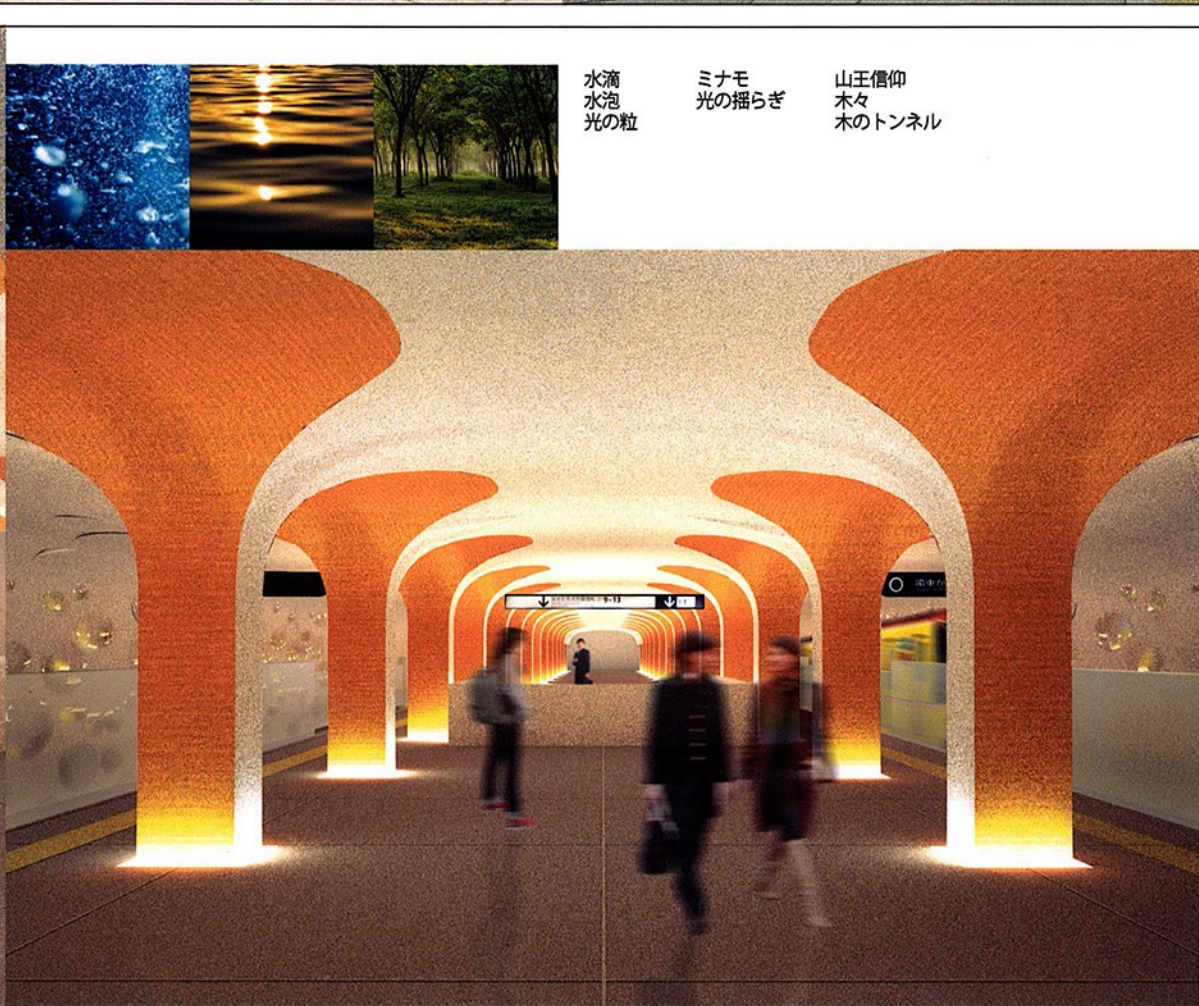
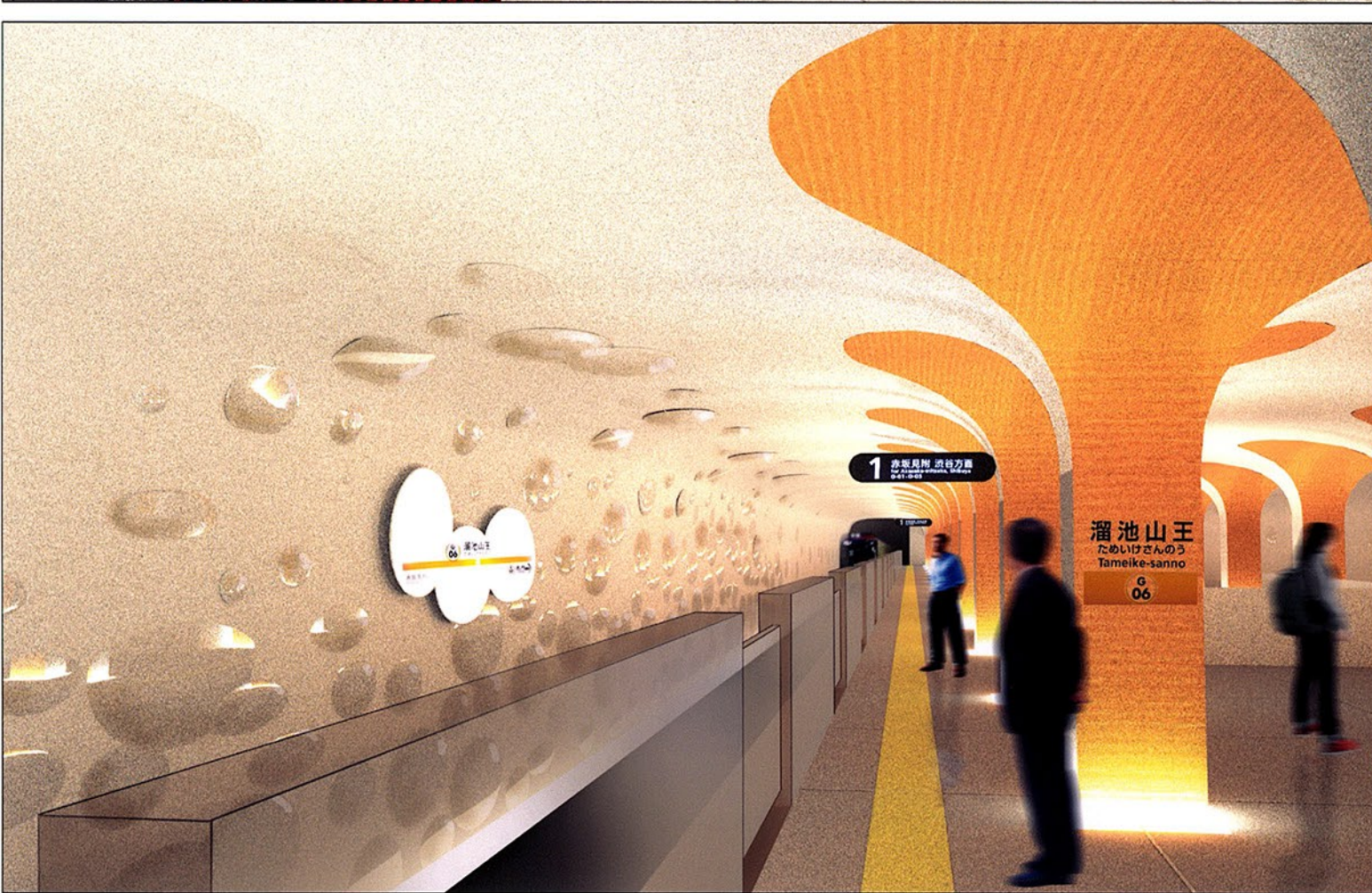
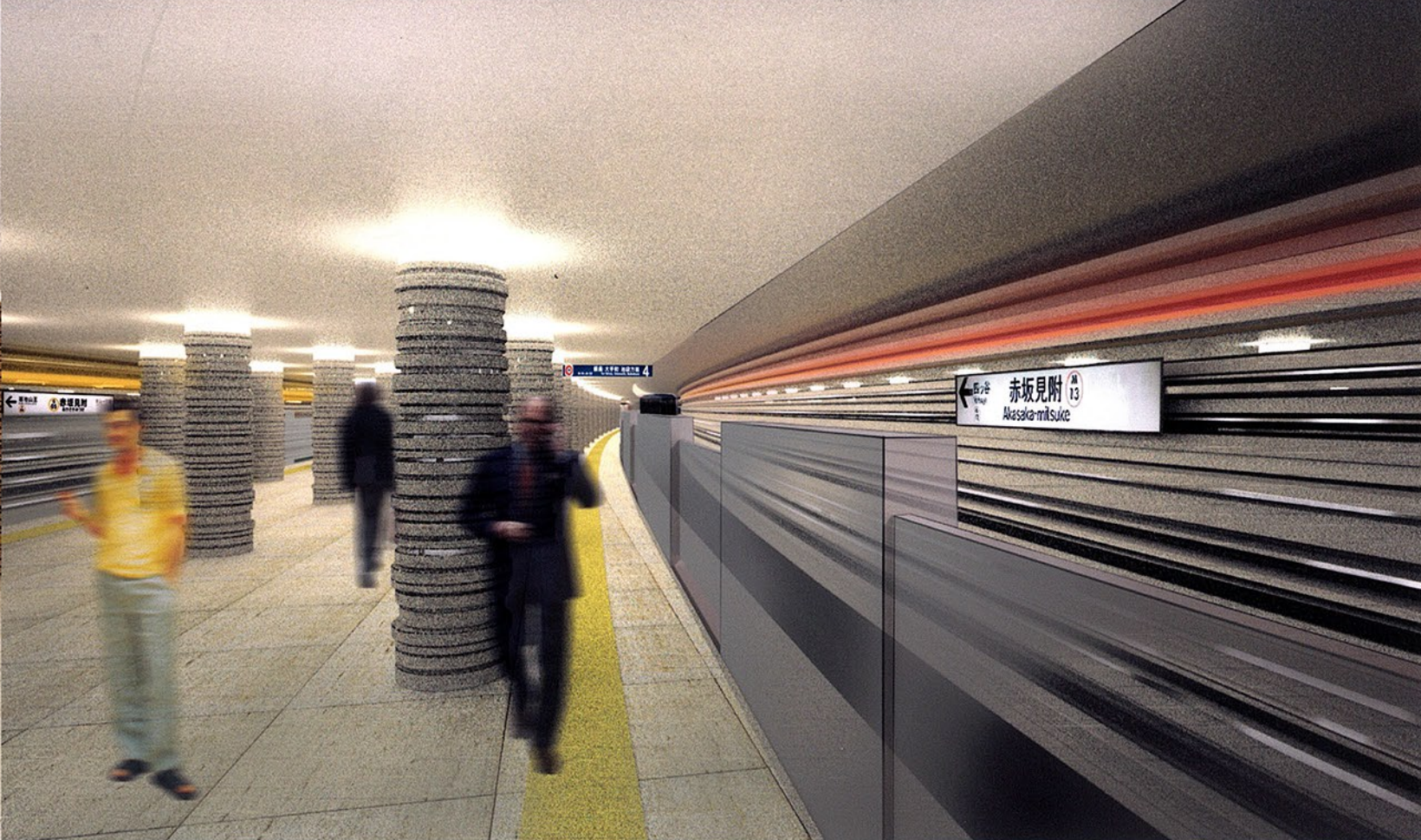
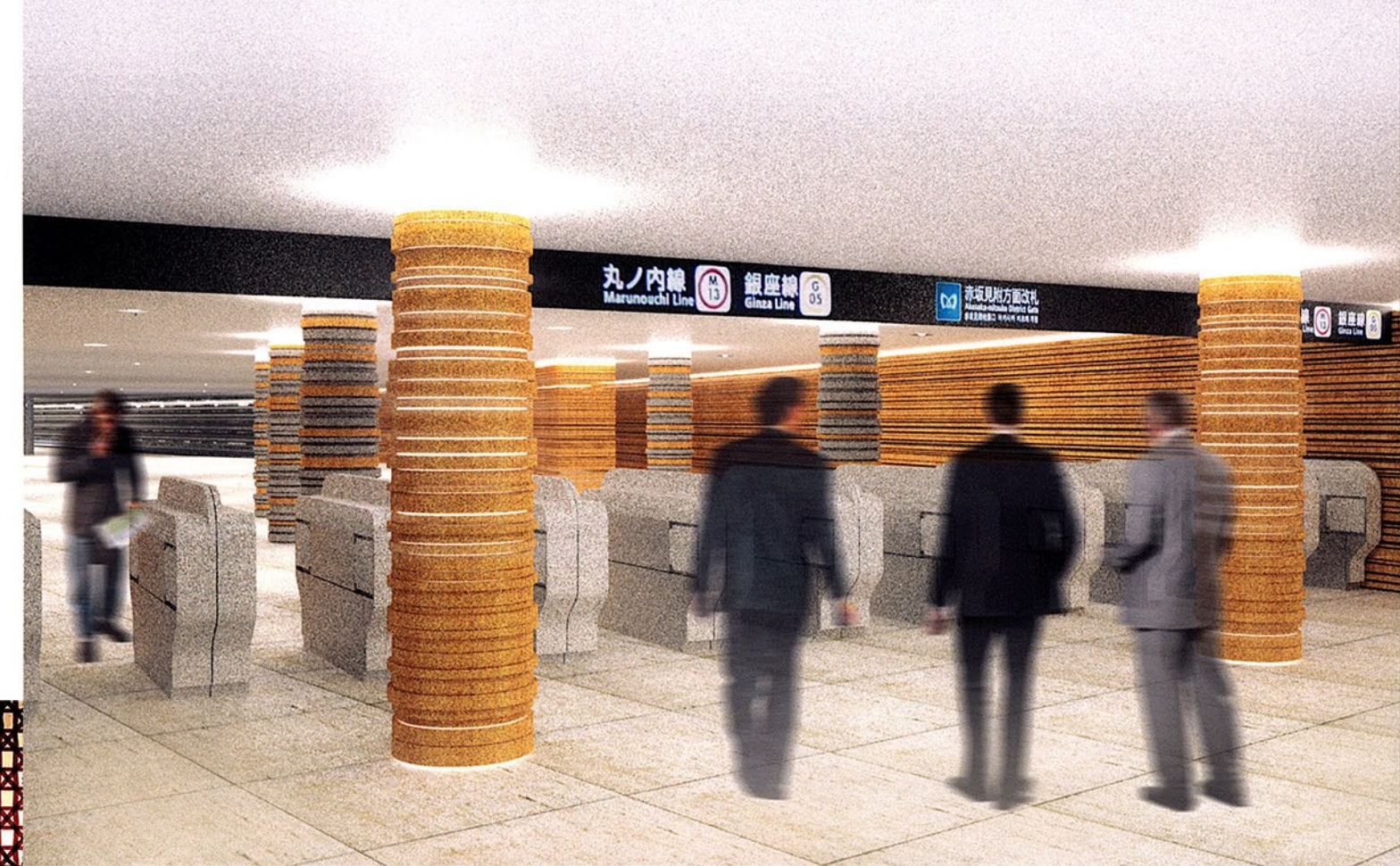
新橋駅

全体的にメタルファブリックの壁面とし、さらに和の柄をあしらうことで、現代的な素材と伝統を融合させます。これは、新橋が金属やガラスで溢れたオフィス群であると同時に新橋芸者の花街であることを想起させます。地上出口は、メタルファブリックの外装とし、街や車の光を反射しながら、光のエントランスとなります。また、LED 照明を天井と床の両側へ掛け、上下で色温度を変えメタルファブリックを照らします。新橋色と銀座線のラインカラーの2色をつかうことで、それらは光のグラデーションとなり融合します。これは、かつての新橋駅も題材となった浮世絵の色彩技法を感じさせてくれます。



赤坂見附駅

柱や壁は、木質素材や石材・金属パネルが積層されたデザインとし、かつての見附の石垣が積まれた状態を思い起こさせてくれます。また、積層された素材が連続して水平方向へ連なる様は、国道 246 号線や首都高速、外濠、丸ノ内線と銀座線、といった交通が目まぐるしく交わる今日の赤坂の街を表してもいます。一方で、改札付近の、LED 照明と木質素材の輪が連なる丸柱によるデザインは、赤坂・料亭文化の情緒を醸し出す灯籠をイメージさせるあたたかい和の質感を感じさせます。



溜池山王駅

車両のヘッドライトは入線とともに、壁面の鏡面塗装された水泡形状のパネルをなぞり、光の揺らぎをつくりだします。これは、江戸の貯水池であったことを思わせ、水面（ミナモ）の美しい光をホーム壁面へ現代的に表現しています。また、木質の壁や列柱は、木々のトンネルを彷彿させ、山王信仰としての日枝神社の存在を感じさせます。

